

Ⅲ 資本等

1 資本金の状況

機構の資本金の状況は、次のとおりである。

区 分	令和5年度期首	増減額	令和5年度期末
畜産勘定	29,965,359,951円	—	29,965,359,951円
野菜勘定	260,739,653円	—	260,739,653円
肉用子牛勘定	328,562,593円	—	328,562,593円
合 計	30,554,662,197円	—	30,554,662,197円

2 財務の状況

(1) 会計処理

機構は、法人の財政状態及び運営状況を明らかにするため、独立行政法人会計基準に沿った会計処理を行っており、決算に係る財務諸表は、監事及び会計監査人による監査を受け、農林水産大臣から承認された後、機構ホームページに掲載するとともに、官報に公告し、かつ、各事務所において一般の閲覧に供している。

機構の会計は、業務ごとに経理を区分し、畜産勘定、補給金等勘定、野菜勘定、砂糖勘定、でん粉勘定及び肉用子牛勘定の6勘定を設けて整理している。

機構の各種業務を執行した結果、損益計算において利益が生じたときは、前事業年度から繰り越した損失を埋め、なお残余があるときは、その残余の額は、当該勘定において積立金として整理することになっている。一方、損益計算において損失が生じたときは、積立金を減額して整理し、なお不足があるときは、その不足額は、繰越欠損金として整理することになっている。

(2) 損益等

ア 畜産勘定

当勘定においては、肉用牛肥育及び肉豚経営安定交付金の交付業務、畜産業振興事業に対する補助業務、畜産物に関する情報収集提供業務、畜産関係団体に対する出資に係る株式又は持分の管理業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、調整資金戻入益660億7126万4000円、畜産業振興資金戻入益717億1491万5000円、運営費交付金収益6億698万8000円、過年度補助事業費返還金及び投資評価引当金戻入益12億7658万3000円、賞与引当金見返に係る収益及び退職給付引当金見返に係る収益1億310万5000円、運用利息、雑益等1億9393万8000円を加えた1399億6679万2000円で、費用が、肉用牛肥育及び肉豚経営安定交付金等事業費318億1663万6000円、畜産業振興事業費971億7576万4000円、情報収集提供事業費3億1769万0000円、肉用子牛勘定への業務財源繰入100億8040万7000円、これらに係る一般管理費等5億6171万2000円を加えた1399億5220万8000円となったことから、当期利益は1458万4000円を計上した。この結果、積立金1458億4000円となった。このほかに前中期目標期間繰越積立金8億6998万7000円がある。

調整資金の収支は、収入が、政府からの交付金372億8096万7000円、支出が、肉用牛肥育及び肉豚経営安定交付金等事業費311億6062万9000円、畜産業振興事業費244

億6500万9000円、情報収集提供事業費2億387万8000円、肉用子牛補給金等事業費100億6789万4000円、一般管理費1億7385万4000円であった。

一方、畜産業振興資金の収支は、収入が、政府からの交付金163億772万8000円、生産者等からの拠出金53億8224万4000円、運用利息、雑益、過年度補助事業費返還金、調整資金運用利息等による収益の受入が12億7699万5000円、支出が、肉用牛肥育及び肉豚経営安定交付金等事業費5億365万5000円、畜産業振興事業費724億6828万7000円のほか、これらに係る一般管理費等が**3276万5000円**であった。

令和5年度の畜産業振興事業は、酪農の経営安定対策等26項目の事業に対して補助金を交付するとともに、前年度以前に補助金として交付した畜産経営維持緊急支援資金融通事業、肉用牛肥育経営緊急支援事業、畜産経営力向上緊急支援リース事業及び畜産収益力向上緊急支援リース事業に係る返還金等5639万7000円については、不要財産として国庫納付した。

イ 補給金等勘定

当勘定においては、加工原料乳の生産者補給交付金等交付業務、輸入乳製品の売買業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、農畜産業振興対策交付金戻入益331億円、輸入乳製品売渡収入189億9914万5000円に運用利息、雑益等207万4000円を加えた521億121万8000円で、費用が、加工原料乳生産者補給交付金等交付事業費371億5659万5000円、輸入乳製品買入費152億4162万円、これらに係る業務費及び一般管理費等5億2071万5000円を加えた529億1892万9000円となったため、前中期目標期間繰越積立金8億1771万1000円を取り崩したことから、当期利益は0円となった。この結果、前中期目標期間繰越積立金は49億5526万9000円となった。

ウ 野菜勘定

当勘定においては、指定野菜価格安定対策事業、契約指定野菜安定供給事業、特定野菜等供給産地育成価格差補給事業、緊急需給調整事業、大規模契約栽培産地育成強化事業、野菜に関する情報収集提供業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、野菜生産出荷安定資金戻入益80億5130万6000円、大規模契約栽培産地育成強化事業補助金戻入益7億6452万8000円、運営費交付金収益6億5299万2000円、資産見返運営費交付金戻入等1425万6000円、賞与引当金見返に係る収益及び退職給付引当金見返に係る収益4976万9000円、運用利息、雑益等1億1002万5000円、過年度補助事業費返還金等2万7000円、前中期目標期間繰越積立金取崩額694万6000円を加えた96億4985万円で、費用が、野菜価格安定対策事業費68億5799万円、野菜農業振興事業費19億5328万3000円、情報収集提供事業費3826万9000円、これらに係る業務費及び一般管理費等7億3838万8000円を加えた95億8792万9000円となったことから、6192万円の当期利益を計上した。この結果、積立金は6192万円となった。このほかに前中期目標期間繰越積立金は1710万8000円がある。

野菜生産出荷安定資金の収支は、収入が、政府からの補助金55億円、生産者等からの拠出金37億9038万9000円、過年度補助事業費返還金等2万7000円、支出が、交付金等80億5133万3000円、負担金返戻3億363万4000円であった。

エ 砂糖勘定

当勘定においては、輸入に係る指定糖の買入・売戻業務、異性化糖等の買入・売戻業務、輸入加糖調製品の買入・売戻業務、甘味資源作物の交付金交付業務、国内産糖の交付金交付業務、砂糖生産振興事業、砂糖に関する情報収集提供業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、糖価調整事業収入267億7329万2000円、甘味資源作物・国内産糖調整交付金戻入益97億3080万8000円、砂糖生産振興事業補助金戻入益6億2483万3000円、運営費交付金収益8億9574万4000円、資産見返運営費交付金戻入等1999万2000円、賞与引当金見返に係る収益及び退職給付引当金見返に係る収益8550万5000円、雑益342万5000円を加えた381億3359万8000円で、費用が、糖価調整事業費484億8434万円、砂糖生産振興事業費6億2483万3000円、情報収集提供事業費9482万4000円、これらに係る業務費及び一般管理費等8億5205万円を加えた500億5604万7000円となったことから、119億2244万8000円の当期損失を計上した。この結果、前期繰越欠損金557億3199万4000円と合わせて、繰越欠損金は676億5444万2000円となった。

オ でん粉勘定

当勘定においては、輸入に係る指定でん粉等の買入・売戻業務、でん粉原料用いもの交付金交付業務、国内産いもでん粉の交付金交付業務、でん粉に関する情報収集提供業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、でん粉価格調整事業収入88億7047万1000円、運営費交付金収益3億580万円、資産見返運営費交付金戻入971万6000円、賞与引当金見返に係る収益1065万6000円、退職給付引当金見返に係る収益△1613万2000円、雑益35万3000円を加えた91億8086万4000円で、費用が、でん粉価格調整事業費88億3334万2000円、情報収集提供事業費2954万円、これらに係る業務費及び一般管理費等1億760万4000円を加えた89億7048万6000円となったため、2億1039万9000円の当期利益を計上した。この結果、積立金は2億1039万9000円となった。このほかに前中期目標期間繰越積立金4億8029万8000円がある。

カ 肉用子牛勘定

当勘定においては、肉用子牛の生産者補給交付金交付業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、畜産勘定から受け入れた業務財源100億8040万7000円、運営費交付金収益4817万3000円、賞与引当金見返に係る収益及び退職給付引当金見返に係る収益721万円、運用利息及び雑益等208万5000円、過年度補助事業費返還金2万3000円を加えた101億3789万8000円で、費用が、肉用子牛生産者補給交付金78億6237万2000円、生産者積立助成金11億223万6000円、これに係る業務費、業務委託費及び一般管理費等11億7202万2000円を加えた101億3663万円となったため、126万8000円の当期利益を計上した。この結果、利益剰余金は126万8000円となった。